

人と化学をむすぶ会の歩み

人と化学をむすぶ会代表
渡邊雄一

1) はじめに

平成15年3月、第1回のPRTR制度による化学物質の排出データが公表された時、環境カウンセラー会ひょうごの会員で「化学物質問題」に関心のある有志がリスクコミュニケーションの勉強会を始めました。翌平成16年4月、7名で「人と化学をむすぶ会」を結成しました。会の目的は一般の市民に親しみにくい化学物質について、やさしく解説することです。メンバーは女性1名、男性6名、全員環境カウンセラーで、化学会社の退職者・在職者、大学関係者、技術士、地球温暖化防止活動推進員、化学物質アドバイザー等多彩であります。

2) 活動のあらまし

発会当初、PRTR制度で公表された「化学物質のリスク」について県民講座等で講演を行いました。聞いていただいた人々に、身近な話とは受け止めてもらえませんでした。討議の末、「身のまわりの化学物質」や「健康問題と化学物質」という生活と直結する問題や化学を中心とした理科教育へと活動の範囲を広げていきました。また、化学物質問題の啓発活動の方法についても、講演会方式に加え、実験やパネルによる解説、アンケートやクイズを基にした方式へと変化していきました。現在は各種イベントでの実験を主体にした出展や、学校、自治会や児童の集まり等への出前教室が活動の1本の柱となっています。



*G8環境大臣会合連携・活動ブース
神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

一方、啓発活動と並行して調査研究活動にも力を入れています。METI-LISを活用した居住地域を中心とする道路周辺の化学物質濃度のシミュレーション及び水質測定や水生生物調査による河川の汚染度調査等があります。

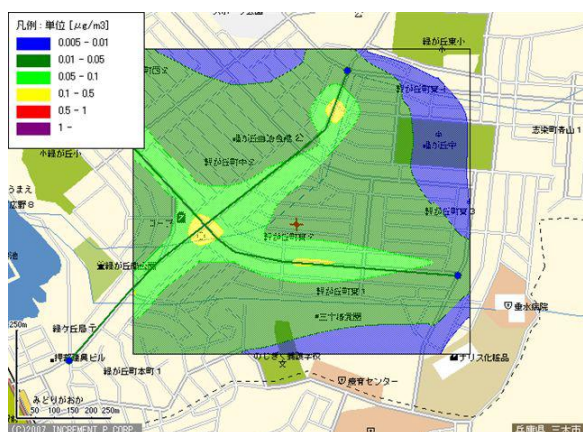


*志染川（三木市内）の水生生物調査
三木自然愛好研究会との協働研究

これら一連の活動、調査・研究に要する費用は会費及び講演料収入等に加え大気環境保全活動助成金、瀬戸内海環境保全活動助成金、ひょうご環境保全創造活動助成金、県民ボランティア活動助成金や各種イベントの助成金を充当しています。



＊産総研吉門先生による METI-LIS の講習



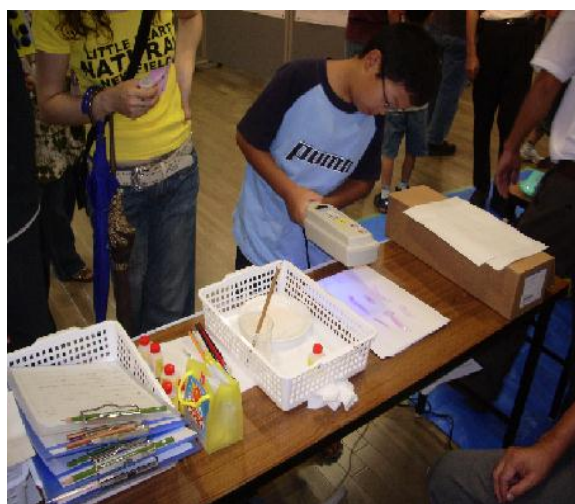
＊交通量調査を行い、METI-LIS を利用したベンゼン濃度のシミュレーション地図

3) 教材づくり

現在まで実験を主体にしたプログラムは
 ①化学電池 (ボルタ電池、燃料電池等) ②二酸化炭素実験 (ローソク実験、ぶくぶく実験等) ③身近なものの PH を測ってみよう ④忍者えのぐで絵を描いて紫外線を感じよう ⑤混ぜてはいけないカビ取り剤の組み合わせは? ⑥これからの問題「やさいの中の硝酸塩」調べ、等であります。

実験を補完するパネルの整備も進んでいます。

教材の開発はそれぞれの家庭の台所実験によるところが大きいようです。初めは珍しさもあって手伝ってくれた家族も、いつまでもはつきあってくれません。実験の後片付けも大仕事となることが多く、設備の整った会社の実験室を思い浮かべる時もありますが「整備されているから、面白い教材ができるとは限らない」ということになっています。



＊「忍者えのぐで紫外線を感じよう」
 青少年のための科学の祭典 (東播磨会場)

4) これから

現在子供たちの理科離れが云々されていますが、私たちは実験が好きな子供達とたくさん出会いました。物が動く、音が出る、色が変わることに対して目の色を変える子供をみていると、理科実験はなかなか魅力ある活動であると思います。しかし、教材の開発は本来教育現場と協働で行うのが本筋であるとすれば、今後そのルートを探ることが大きな課題の一つであると感じています。

記 2008.09 (完)